

FRONTIER INTERNATIONAL GROUP

2025年4月期 決算補足説明資料

株式会社フロンティアインターナショナル

東証グロース [7050]

エグゼクティブサマリー

- 1 2025年4月期業績は、前期固有の特殊要因(パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー 2023、コロナ関連ワクチンBPO)や、2024年9月に連結子会社化した2社(シネブリッジ、マックスプロデュース)の影響を除けば、前期比18.0%増収、営業利益102.8%増益と既存ビジネスは堅調。(参考)実績は、前期比20.0%増収、営業利益5.6%増益。

※5ページで説明

- 2 2026年4月期業績見通しは、前期比13.1%増収、営業利益21.3%増益。
大阪・関西万博関連業務が継続していることに加え、情報・通信、食品の受注が堅調に推移していることや、2024年9月に連結子会社化した2社が通期業績に寄与すること、その他の子会社もPMI(注)により利益改善が見込まれる。

※14～16ページで説明 (注)Post Merger Integration:M&A後の統合プロセス

- 3 配当方針「大型 M & A が発生しない場合には配当性向 50%を目安」に則り、配当金は、2025年4月期 99円、2026年4月期 113円を予定。

※17ページで説明



CONTENTS

01 | 2025年4月期業績

02 | 2026年4月期通期業績予想

03 | APPENDIX

01

| 2025年4月期業績

2025年4月期 通期(5月から4月)業績

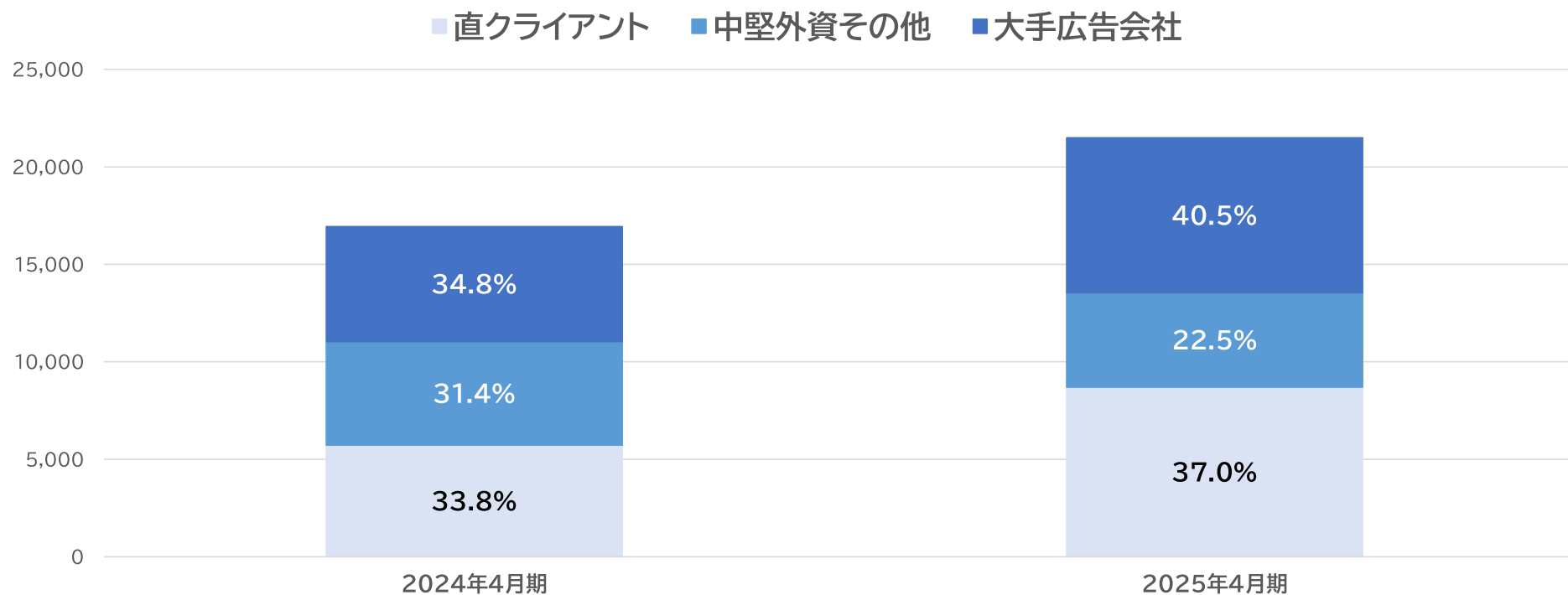
- 大阪・関西万博やその他の販促イベントの回復もあり、イベント開催数は前期に比べ11.2%増加し、各段階損益は全て前期を上回った。
- 特に前期固有の特殊要因(パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2023、コロナ関連ワクチンBPO)や、2024年9月に連結子会社化した2社(シネブリッジ、マックスプロデュース)の影響を除いた場合、営業利益は前期比約2倍まで伸長した。

	実績		前年同期比	特殊要因などを除く		前年同期比
	2024年4月期	2025年4月期		2024年4月期	2025年4月期	
	5月-4月	5月-4月		5月-4月	5月-4月	
売上高	16,944	20,335	20.0%	14,089	16,630	18.0%
売上総利益	3,470	3,893	12.2%	2,864	3,770	31.6%
(利益率)	20.5%	19.1%		20.3%	22.7%	
販管費	2,260	2,616	15.7%	2,244	2,513	12.0%
営業利益	1,210	1,277	5.6%	620	1,256	102.8%
(利益率)	7.1%	6.3%		4.4%	7.6%	
経常利益	1,232	1,267	2.8%			
(利益率)	7.3%	6.2%				
当期純利益	488	876	79.5%			

※特殊要因については売上高、売上総利益を調整

受注先別売上占有率(連結)

- 大手広告会社については、事業基盤と位置づけ取引拡大に注力しており、業種別に見ると、食品、ゲーム関連が好調。
- 直クライアントについては、連結子会社3社(ガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュース)を中心に顧客開発が進展。



案件業種別売上占有率(業界別)

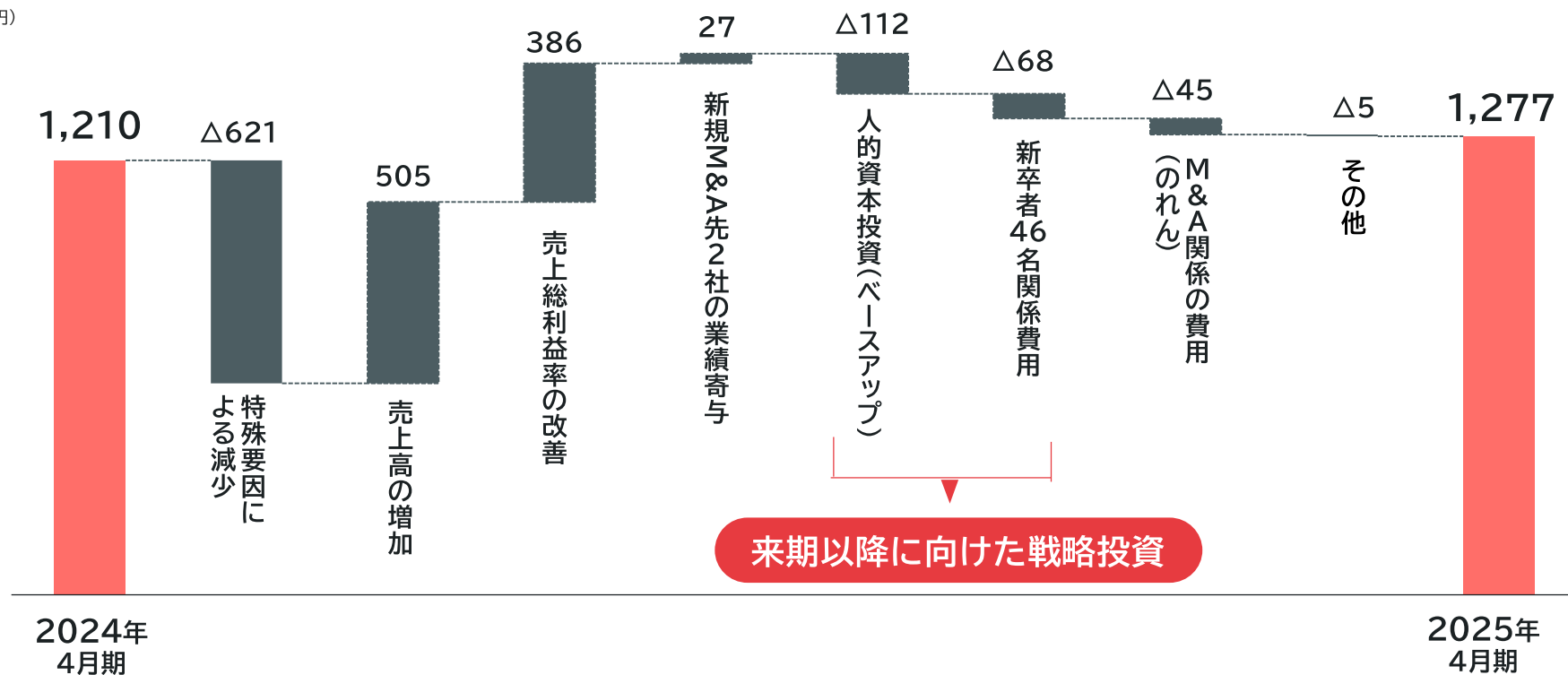
- 販促イベントが回復したことで、情報・通信、食品などが増収となる一方、スポーツ・ファッション(パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー 2023の反動減)、官公庁・団体(コロナ関連ワクチンBPOの反動減)などが減収。

(百万円)	2024.4期		2025.4期		増減額	増減率
情報・通信	1,492	8.8%	3,674	18.1%	2,182	146.2%
食品	1,909	11.3%	3,100	15.2%	1,191	62.4%
小売・家電	2,183	12.9%	2,051	10.1%	△132	△6.0%
官公庁・団体	2,846	16.8%	1,914	9.4%	△932	△32.8%
その他団体	1,545	9.1%	1,443	7.1%	△102	△6.6%
ゲーム	1,275	7.5%	1,431	7.0%	156	12.2%
嗜好品・化粧品	769	4.5%	1,213	6.0%	444	57.7%
交通・レジャー	504	3.0%	1,169	5.8%	665	132.0%
スポーツ・ファッション	1,497	8.8%	1,138	5.6%	△359	△24.0%
不動産・住宅設備	774	4.6%	1,045	5.1%	271	35.0%
金融・保険	360	2.1%	636	3.1%	276	76.7%
自動車・関連品	552	3.3%	393	1.9%	△159	△28.9%
薬品・医療用品	168	1.0%	215	1.1%	47	27.8%
その他	1,072	6.3%	914	4.5%	△158	△14.7%
総計	16,944	100.0%	20,335	100.0%	3,391	20.0%

営業利益の増減分析

- 前期の特殊要因の反動や、ベースアップの実施、新卒採用46名採用といった戦略投資などが利益押し下げ要因となったが、売上高の増加や特殊要因を除いた売上総利益率が2.4%改善したことなどから増益を達成。

(百万円)



来期以降に向けた戦略投資

※特殊要因については売上総利益を調整

01 2025年4月期業績

連結貸借対照表

(百万円)	2024.4期	2025.4期	前期末比
流動資産	9,280	11,861	2,581
現預金	6,434	7,499	1,065
固定資産	2,342	2,620	278
負債	3,375	5,453	2,078
純資産	8,248	9,028	781
自己資本比率	70.6%	61.4%	△9.2%
総資産	11,623	14,482	2,859

- 流動資産は現預金10.6億円、営業債権13.5億円増加し118.6億円。
- 固定資産はM & Aを実施した結果、のれんが2.3億円増加し、26.2億円。
- 負債は営業債務8.0億円、未払消費税・法人税が4.0億円増加し、54.5億円。
- 総資産は前期末比28.6億円増加し、144.8億円。
- 自己資本比率はM & A(シネブリッジ、マックスプロデュース)による総資産の増加等により、前期比▲9.2%。

01 2025年4月期業績

連結キャッシュフロー計算書

	2024.4期	2025.4期	前期比
(百万円)			
営業CF	1,541	1,673	132
投資CF	△42	△445	△404
財務CF	△312	△293	18
配当支出	△258	△173	85
現金・現金同等物 増減額	1,195	929	△265
期末残高	5,184	6,113	930
FCF	1,499	1,227	△272

- 営業CFは、前期比1.3億円の増加。
- 投資CFは、投資有価証券、子会社株式の取得により、前期比▲4.0億円の減少。
- 財務CFは、配当金の支払額の減少により、前期比0.2億円増加。
- FCFは、12.3億円となり、前期比▲2.7億円の減少。

サステナビリティへの取り組み

- 国内各地の子供たちが「持続可能な未来の自分たちの街」について話し合う「国連を支える世界こども未来会議」の事務局、実施運営を担当。
「国連を支える世界こども未来会議」で語り合ったアイデアを、2025年5月、代表の子どもたちがNYの国連本部に届けました。
- クリスマスに病院で病気とたたかう子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるサンタパレード(東京・大阪)の運営サポートを実施。

日本国内の国連を支える世界こども未来会議(大阪、広島、熊本、品川区など)



第5回「国連を支える世界こども未来会議」2025年3月23日開催



サンタパレード2024 東京・大阪



事例紹介

■ 渋谷盆踊り 2024 (イベント企画制作運営)



■ TOKYO GIRLS COLLECTION 2024 AUTUM/WINTER (イベント企画制作運営)



■ JR WEST Parade Train(「大阪・関西万博」 行きの車内空間演出LEDパネル設置) デジタルサイネージアワード2025グランプリ受賞



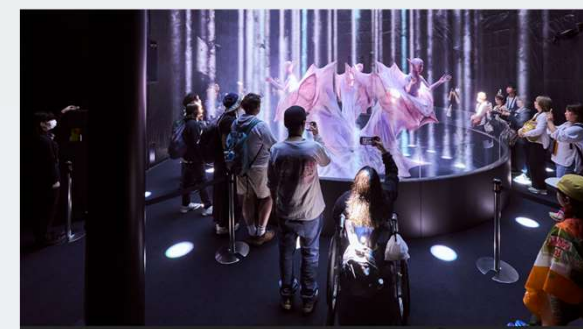
■ グラングリーン大阪 全面開業プロ モーション(イベント企画制作運営)



■ 東京マラソンEXPO2025 (イベント企画制作運営)



■ シグネチャーパビリオン 「いのちの未来」 (「大阪・関西万博」パビリオン運営計画・実施業務)



02

| 2026年4月期通期業績予想

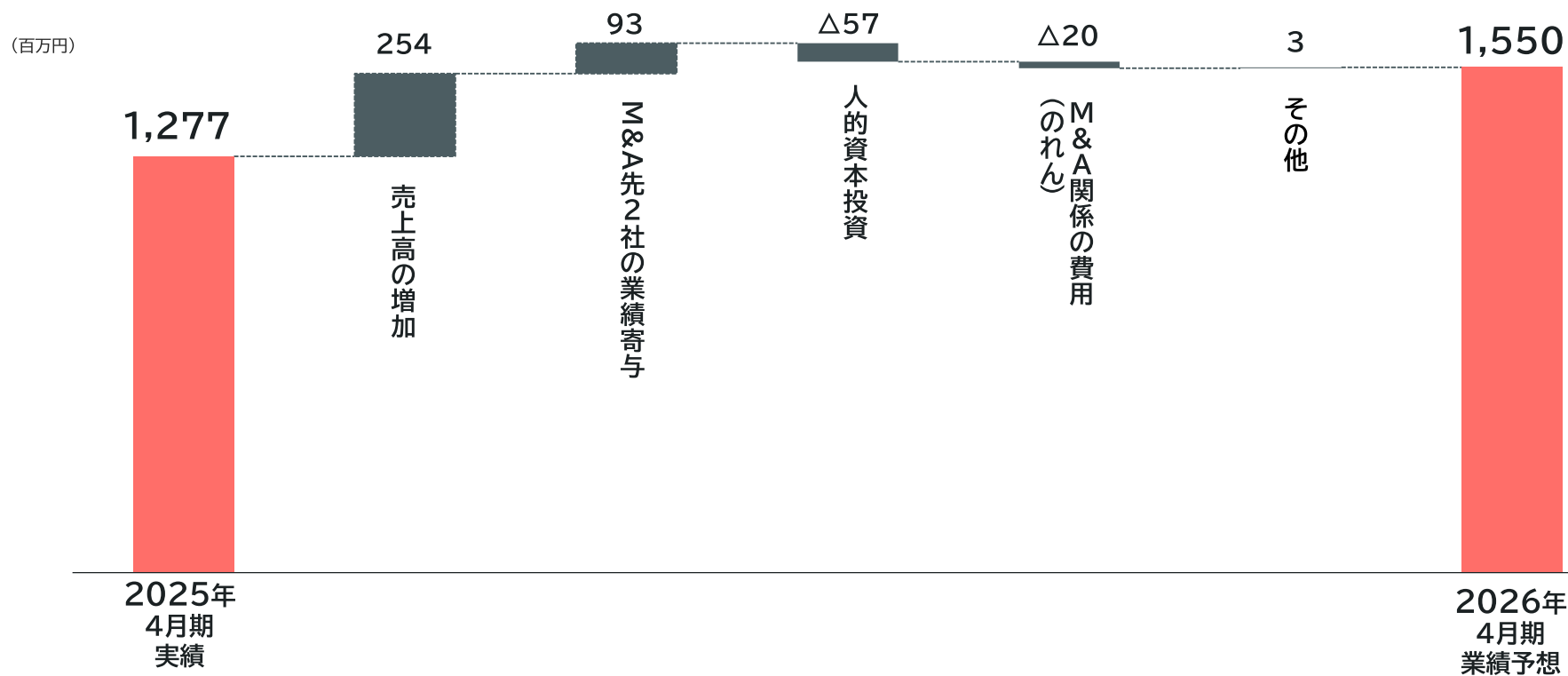
2026年4月期通期業績見通し

- 2026年4月期は、大阪・関西万博関連業務が継続していることに加え、情報・通信、食品の受注が堅調に推移していること、2024年9月に連結子会社化した2社(シネブリッジ、マックスプロデュース)が通期業績に寄与すること、その他の子会社もPMIにより利益改善見通しであるため、売上高13.1%増収、営業利益21.3%増益を計画。

	2025年4月期	2026年4月期	
(百万円)	通期実績	業績予想	増減率
売上高	20,335	23,000	13.1%
売上総利益	3,893	4,485	15.2%
(利益率)	19.1%	19.5%	
販管費	2,616	2,935	12.2%
営業利益	1,277	1,550	21.3%
(利益率)	6.3%	6.7%	
経常利益	1,267	1,574	24.2%
(利益率)	6.2%	6.8%	
当期純利益	876	1,007	14.9%

営業利益の増減分析

- 大阪・関西万博関連業務をはじめ既存ビジネスが堅調であることに加え、2024年9月に連結子会社化した2社が通期業績に寄与することや、その他の子会社もPMIにより利益改善見通し。



受注残高

- 2025年4月末現在の受注残高(受注+High+Midの合計)は前期比50.9%増と大幅に伸長。

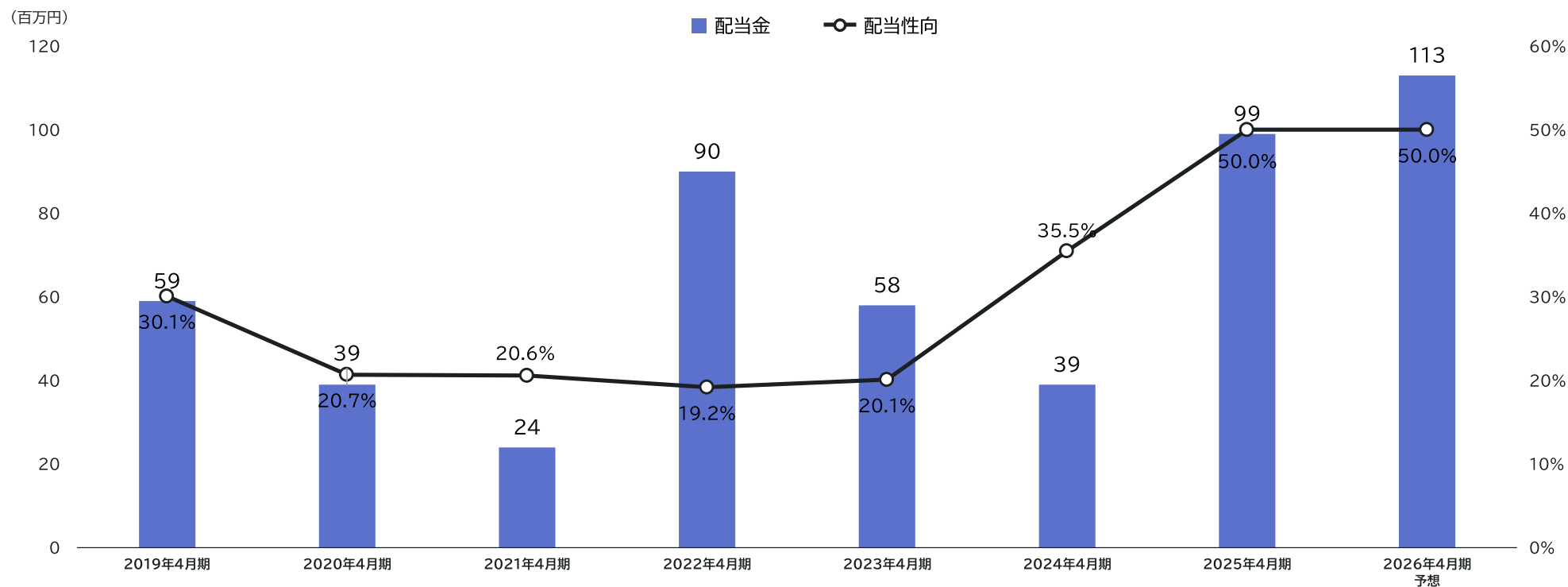
	2025年4月期	2026年4月期	
売上高(百万円)	(2024/4/30現在)	(2025/4/30現在)	差異
受注残高 (受注+High+Midの合計)	7,770	11,725	3,954
Lowの合計	5,738	3,454	△2,284

※ ガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュースは含まず

- 受注: 金額・実施時期が決定している案件
- High: 金額・実施時期に不確定要素のある案件(80%以上の確度)
- Mid: 企画・提案案件のうち、受注する確度の高い案件(50%以上の確度)
- Low: 企画・提案中の案件

配当予想

- 当社グループは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、経営成績及び財務状況、中長期的な事業拡大に必要な内部留保など、その見通しに応じた適切な利益還元策を柔軟に検討し、実施することを基本方針としている。
- 資本効率のさらなる向上を達成するため、配当方針は「大型M&Aが発生しない場合には配当性向(連結)50.0%程度を目安」。



03

APPENDIX

- Purpose、会社概要・沿革

—— 私たちの未来

OUR FUTURE

心の豊かさを分かち合える
生きる喜びに満ちた世界の実現。

私たちが創る体験によって、世界を喜びと感動で満ちし、
幸福の総量が増えていくことが私たちの願いです。
閉塞感がある現代において、物質的・機能的な充足だけでなく、
精神的な充足や心が豊かであること、そして人生を前向きに進めていく生きることの
喜びに溢れることが重要だと考えています。

—— 私たちの使命

OUR MISSION

未体験を開拓し、
すべての人の経験にする。

私たちが目指すものは、人の生きがいを創造し、人生を意義あるものとし、
すべての人の人生に貢献していくことです。そのために私たちがすべきことは、
自分自身・顧客・世の中に未知の体験を創り続けることにより、
人の心を動かし、それを人の経験にし、人々の価値観を変え、行動を変え、
やがて社会がより良い方向に大きく変えていくことです。

03 APPENDIX

会社概要・沿革



社名	株式会社フロンティアインターナショナル
事業内容	エクスペリエンスソリューション事業 ヒューマンソリューション事業 デジタル・テクノロジーソリューション事業
代表取締役	河村 康宏
設立	1990年6月
資本金	429,766千円(資本準備金含む)
所在地	東京都渋谷区渋谷3-3-5 NBF 渋谷イースト
主要拠点(国内)	札幌、仙台、東京、千葉 名古屋、大阪、広島、小倉、福岡
正社員数(連結)	464人(2025年4月末現在)
人材登録(連結)	約42,000名
グループ会社	株式会社フロンティアダイレクト 株式会社イリアル 株式会社トリニティ 株式会社ガイアコミュニケーションズ 株式会社シネブリッジ 株式会社マックスプロデュース 株式会社ヴァンクラフト

1990

創業

2001

2005

2008

2009

2010

2013

2018

2019

6月
イベントキャンペーンの企画、制作、
運営を目的として東京都港区六本木
に当社設立

7月
現在地(東京都渋谷区渋谷)に、
本社移転

11月
名古屋オフィスを新設

2月
大阪オフィスを新設

5月
福岡オフィスを新設

8月
中国に划労通文化艺术咨询(上海)
有限公司を設立

4月
店頭販売支援事業に特化した
セルコム株式会社を設立

5月
インドネシアにPT.FRONTIER
INTERNATIONAL INDONESIAを設立

2月
札幌オフィスを新設

5月
株式会社フロンティアインターナショナルの
店頭販売支援事業を2018年5月1日付け
で分社化し新会社「株式会社フロンティアダ
イレクト」を設立

2月
東証マザーズ 上場

2021

6月
仙台、千葉、金沢、広島、小倉、熊本、静岡に
サテライトオフィスを出店

9月
株式会社ワールドパークへ出資

11月
体験創造研究所を設立

2022

2月
ANOBAKA3号有限責任事業組合へ出資

4月
名古屋オフィスを愛知県名古屋市中村区に移転

4月
東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京
証券取引所マザーズからグロース市場に移行

9月
株式会社トリニティ設立

5月
株式会社イリアル設立

12月
株式会社シックスティーパーセントへ出資

2023

2024

1月
株式会社ガイアコミュニケーションズ 子会社化

2月
YADOKARI株式会社へ出資

8月
株式会社GROWTH VERSEへ出資

9月
株式会社シネブリッジ 子会社化
フォッグ株式会社へ出資
株式会社マックスプロデュース 子会社化

2025

4月
株式会社ヴァンクラフト 子会社化
株式会社KT Partnersへ関連会社化



お問い合わせ先



info@frontier-i.co.jp

● 本資料に関する注意事項

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予想とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業展開する業界の動向等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。